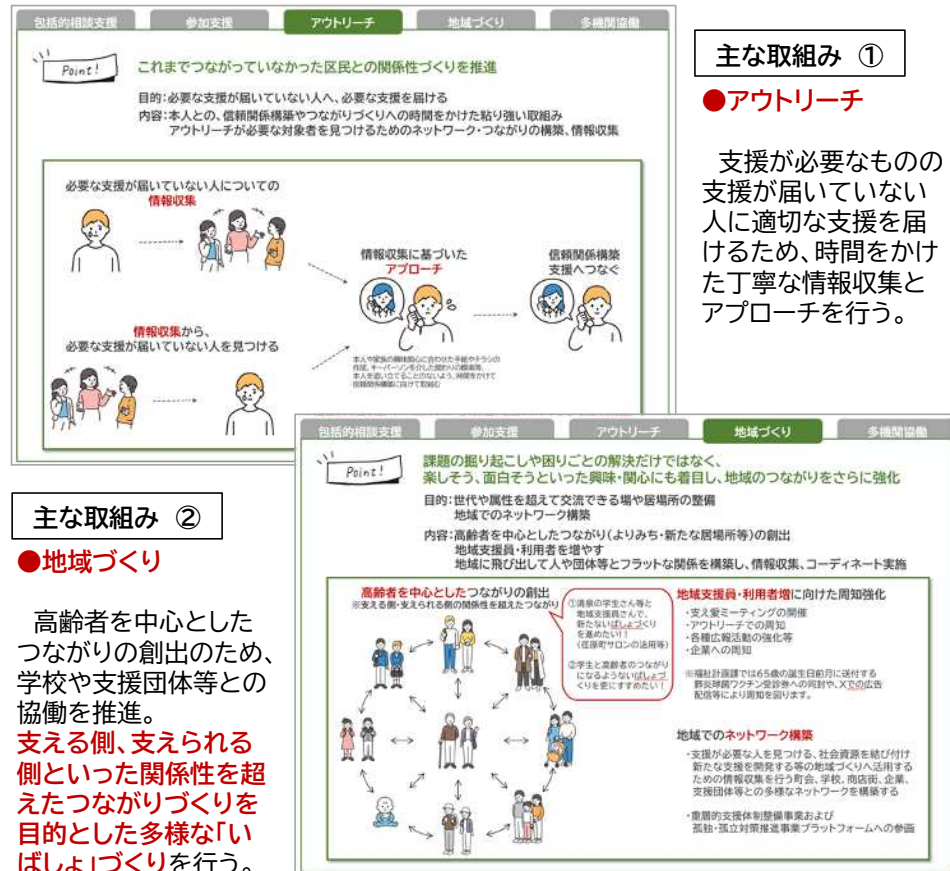


1. 令和7年度からの本格実施に向けた体制整備 (支え愛・ほっとステーションとの協働)

各支え愛・ほっとステーションのコーディネーターを2名から3名へ増員し、これまで主に65歳以上を対象としていた**相談対応を全世代へ展開**する他、これまで支え愛・ほっとステーションが地域と構築してきた関係性を活かした、効果的な重層的支援体制整備事業の実施体制を整備する。



主な取組み ①

●アウトリーチ

支援が必要なものの支援が届いていない人に適切な支援を届けるため、時間をかけた丁寧な情報収集とアプローチを行う。

主な取組み ②

●地域づくり

高齢者を中心としたつながりの創出のため、学校や支援団体等との協働を推進。
支える側、支えられる側といった関係性を越えたつながりづくりを目的とした多様な「いばしょ」づくりを行う。

2. 支援会議

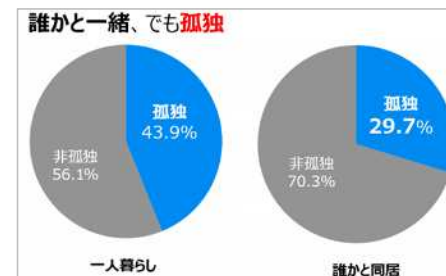
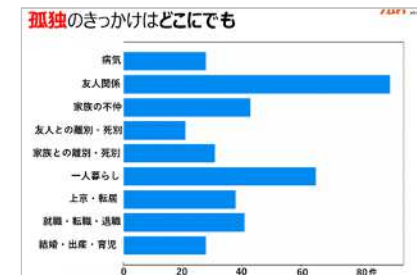
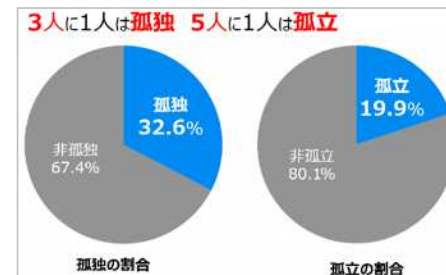
所管課、民間支援団体、町会等の関係者が集まり、複雑化・複合化した課題を抱えた区民やその世帯の現状や抱えている課題を整理し、必要な支援と役割分担を行う。
支援者を一人にしないため、それぞれの強みを生かしつつ、**地域全体としての支援**につなげる。

3. 周知

10月～12月にかけて係長以下職員向けと管理職向けに分けて4回の研修を実施。
令和7年5月を目途に、民間も含めた説明会・研修を実施予定。

1. 実態把握(官学協働)

区民、特に若年層の孤独・孤立の実態を把握するため、区内大学(都立産業技術大学院大学)との協働によりアンケートによる**実態調査**を実施
(対象)区内大学生、CSR企業社員、区職員 (回答)512人



2. 体制整備(官民協働)

役所や多くの相談窓口が閉まる夜間や休日を含め、いつでも相談できる体制を整備するため、**24時間365日誰でも無料・匿名で利用できるチャット相談**を実施しているNPO法人との協定を締結。

つながれた相談のうち、地域での支援が必要なケースについては、福祉計画課につなぐ、支え愛・ほっとステーションとの協働により、適切な支援や重層的支援体制整備事業の(重層的)支援会議につなぎ、地域での支援を実施する。



3. 周知

既存の手法では情報を届けられていない層にも情報を届けるため、Google・インスタグラムでの**支援情報広告配信**を実施した。想定していたクリック率を大幅に上回る結果となり、広告から相談につながったケースも多かった。

11月には**普及啓発イベント**を開催。内閣府参与による講演やパネルディスカッションを声優による朗読劇により進行し、区の支援情報等に興味を持っていない層への普及啓発を図った。
子ども・若者応援フリースペースを利用する当事者にも実行委員会参加を呼びかけ、当事者の社会参加の機会ともなった。

